

## ダイレクトカッティングレポート

井筒香奈江の最新 LP 『Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio』  
撮影&レポート 渡邊 久美（カメラマン） 照井 和彦（JAS 事務局長）

昨年アルバムをリリースした井筒香奈江さんの作品「Laidback2018」はオーディオ協会ではアナログレコード化（品番：AD-2）して OTOTEN2018 会場でも話題になりました。その後も精力的に活動を展開している井筒さんは、今年も続いてアナログレコード制作に取り掛かりました。それが今回紹介するダイレクトカッティングレコード企画です。収録時のスタジオでの様子をカメラマン渡邊 久美氏による撮影写真とともにその一部始終をレポート致します。

### ダイレクトカッティング新譜企画レコード

キング関口台スタジオではカッティングレース整備作業の裏で、稼働後のアナログレコードリリース企画についての検討が並行して進められていました。7月30日にはレコード制作や音楽関係者、オーディオにまつわる人たちへのお披露目イベントがおこなわれましたが、ここに紹介する「DIRECT CUTTING at KING SEKIGUCHIDAI STUDIO」（2019.11.27 発売）が、再スタート後最初にマーケットリリースされる大型録音企画になります。



9月17日キング関口台スタジオ・STUDIO 1「未知の世界への扉が開かれます…」



ピアノマイクアレンジ

寄マイクはノイマン M149、OFF マイクがショップス 64vug  
「この広大な空間はフォトジェニック過ぎる」

「ピアノは藤沢さん。彼の世界観が背中から滲み出します」



金属製音盤打楽器のヴィブラフォンは透き通るような高音とインパクトのある音の立ち上がりが特徴の楽器。それだけに録音過程のないダイレクトカット企画には打ってつけのサウンドソースに。5 つあるブースの一つに入り、マイクをセットしたところ。サンケン社製の 100kHz まで拾える CO-100K とショップス CMC55u が使われている。

「無造作に置かれたマレットと計算されたマイクの位置が美しい」

「奏者の大久保さん、シャツとマレットの色そろえたのでしょうか？」





ボーカル収録に使ったマイクロホンは  
テレフンケン U47



ベースアンプとマイクロホンはノイマン U87  
ベーシスト小川さんは一時間早くスタジオ入りして入念に練習と音調正



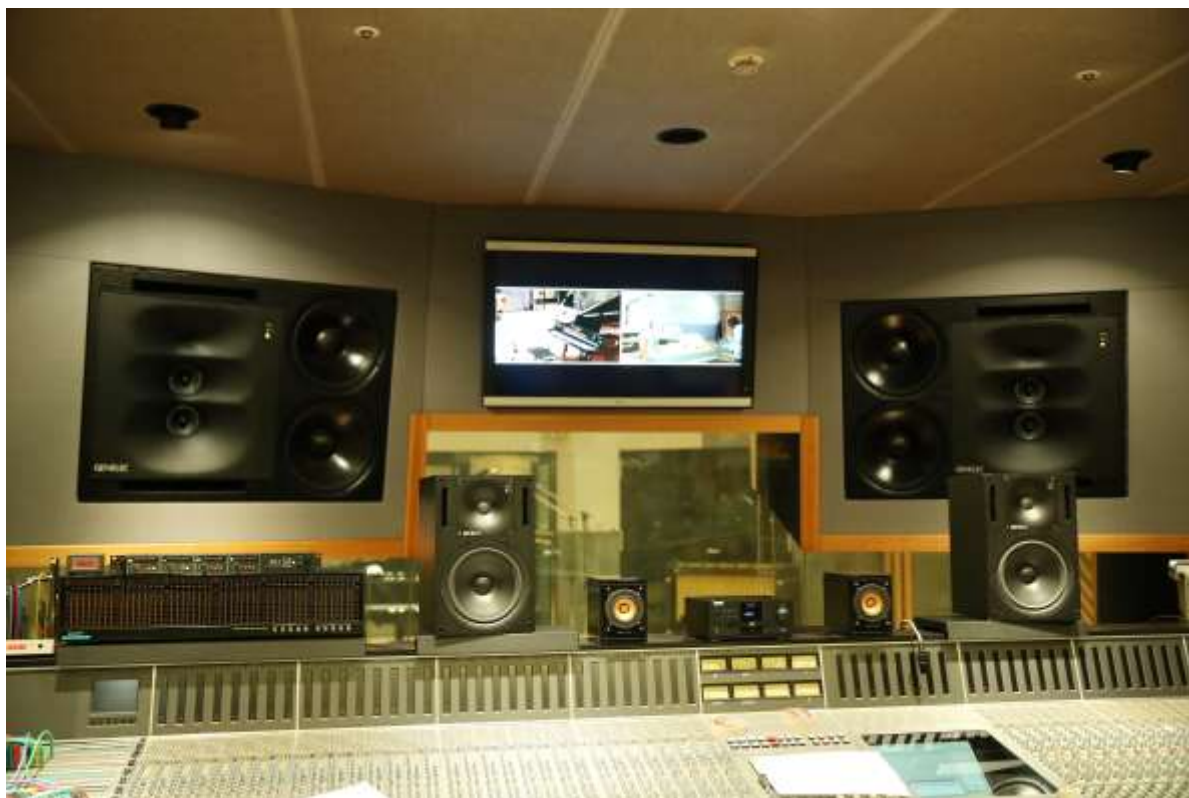
ベースアンプの調整を行うエンジニア高田さん



ベーシスト磯部さん ボーカルブースからのぞむ



一曲試し弾きする都度マイク位置を微調整して最適なポイントを探ります  
マイクはノイマン M49



三つの大きさ違いのモニタースピーカー群をのぞむ



メインのコンソール SSL SL-9000J



調整室での一コマ エンジニア高田さん「音が耳から全身の血液へ流れて行っているようです」  
ダイナミクスを上手にコントロールできるかがダイレクトカッティングレコード制作の肝。コ  
ンプレッサーなどの調整を入念に行います。







ピアノを設置したスタジオ A 空間に音を響かせて豊かなサウンドをキャッチ



「ボーカルの空気を包み込むようなヴィブラフォン、奏者大久保さんも優しく見つめる」



「制作は個性と人柄と職人魂が結びついて Only One になる」



演奏をサブルームでプレイバックしている様子



Day 2 の演奏者と制作エンジニア



Day 1 の演奏メンバーとスタッフで記念写真  
「言葉一つでは言い表せない貴重な体験をさせて頂きました」



Day 2 の演奏メンバーとスタッフとで記念写真  
「みなさん、お疲れ様でした」

おしまいに

カッティングマシン導入～ダイレクトカッティングへの思い  
株式会社キング関口台スタジオ/経営本部長代理兼管理統括部長 高橋邦明

カッティングマシン Neumann VMS70 が 28 年前に稼働を停止し、倉庫で眠っていることはずっと気掛かりでした。いつかはまたカッティングを再開したいという思いからです。意を決して VMS70 再稼働プロジェクトを立ち上げたのが 2 年前、ようやく 2019 年に蘇生・再稼働となりました。そしてもう一つが【ダイレクトカッティング】です。師匠のカッティング・エンジニアよりその素晴らしさと極度の困難さをとくとくと教えられ、何よりダイレクトカッティング LP の音質に衝撃・感動していましたので、ただただ体現したい！とにかく聴きたい！という一念で現代ならではのダイレクトカッティング・システムを構築しました。今回の井筒香奈江さんダイレクトカッティングが第一弾となります。なんと、緊張のテストカッティングから一同度肝を抜かれました。テスト再生されたその瞬間、音質はもとよりその【凄味】たるやまさにこれまで体験したことがない世界。本作の井筒香奈江ダイレクトカッティング・ワールドをぜひともお楽しみ下さい。

井筒香奈江／ダイレクトカット・レコード制作（サウンドプロデュース・ノート）  
 Sound Producer/Recording Engineer 高田英男（Mixer's Lab）

「世界初ダイレクトカッティング+ダイレクト・マスタースタンパーによるレコード制作」  
 井筒香奈江の音楽世界は演奏空間における時間軸をダイレクトに切り取り、一瞬の感情を音として伝えられるかを感じている。音世界の可視化（音場空間、余韻感）・色彩化（楽器の音表情）を通し、井筒香奈江の感性をダイレクトにラッカー盤に刻んでいく。ダイレクトカット・レコード制作は1979年ビクタースタジオにてギターワークショップ vol 3 で録音担当した以来40年の月日が流れている。録音機材もハイレゾ対応となり2019年のダイレクトカット・レコードは、更に驚異の力を見せつける。スタジオで演奏された井筒香奈江の音楽をダイレクトにラッカー盤に刻み、更にダイレクト・マスタースタンパーからプレスにて創られた世界初のレコード（45回転/180g重量盤）は、究極の井筒香奈江ワールドである。

高田さんから「ダイレクトカッティング、やりませんか？」とのお話を頂いたのが今年1月。ダイレクトカッティングと言うものをあまり知らなかった私にも、それがどれだけの一大事かという事はお話から分かりましたが、高田さんのお誘いは断りたくない！との思いだけでお引き受け致しました。当初はキングのアーティストさんが先にやられるとの事でしたので、それを待ちながら緊張をしたまま構想を練りながら、、正式に決まったのが8月頭、ダイレクトカッティング第一段との事で新たなプレッシャーも加わり、そこからどうやって過ごしてきたのやら。。。今はただただ、制作チームの全員が、同じ目的に向かって全力を尽くし、完成させた作品に喜びと自信をもって皆様に聴いて頂けることを嬉しく思っております。名義は 井筒香奈江 ではありますが、これは「Direct Cutting at Sekiguchidai Studio」制作チームの作品です。きっとその力を感じて頂けると信じています。 井筒香奈江



『Direct Cutting at King Sekiguchidai Studio』井筒香奈江  
 30cm45 回転重量盤アナログ LP レコード好評発売中  
 品番：LBLP-051 価格：¥5800 円（税抜）

渡邊 久美（カメラマン）プロフィール

20代からスポーツカメラマンとしてアルバイトを始め、全国を帆走する。その後、ウェディングフォトグラファーとなる。2006年頃からライブを撮る様になり、様々な音楽ジャンルでコンサート、CD ジャケット撮影やアーティストのプロフィール撮影を専門にしている。空気感のある写真を撮りつつ、気配を消す忍者なようなカメラマンと定評がある